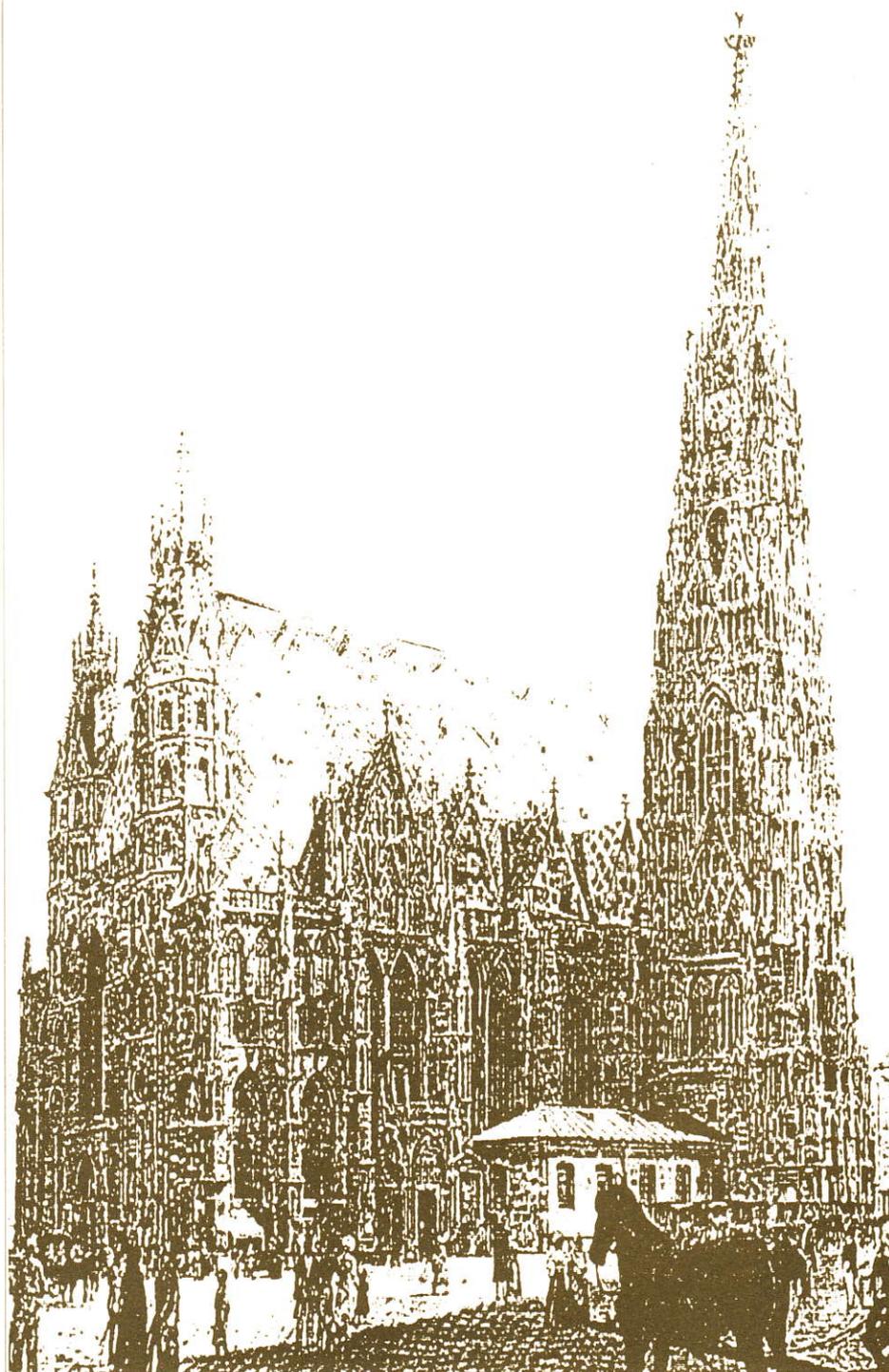


Tokyo Amadeus Chorus

東京アマデウス合唱団
第16回定期演奏会



11/24(日)午後2:00時開演

石橋メモリアルホール

ごあいさつ

本日は、第16回定期演奏会の開催に際して、多数の方々のご来場をいただき、厚くお礼を申し上げます。

東京アマデウス合唱団は、1980年の創立以来、モーツァルトを中心に、その時代周辺のバロックから古典派の作品を取り上げ、年間ほぼ1回の割りで演奏活動を行ってまいりました。

1987年からは、指導者に斎藤明生氏を迎え、音楽創造の一点に集中して基礎的な訓練を怠らずに、かつ理想的な演奏の実現に向けて、研鑽を積み重ねてまいりました。近年その成果が現れてきたとの評もいただいておりますが、遥か彼方に、目指すべきものがようやく見えて来たところと言うべきでありましょう。

団員一同これからも一歩ずつ、日々の努力を惜しまぬよう心しております。今後とも皆様の一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

去年は、バッハとブクステフーデの曲を試みましたが、本日は、東京アマデウス合唱団本来のモーツァルトをメインとし、アルブレヒツベルガーの作品を加えて演奏いたします。皆様に一片の印象をお持ちいただくことができますなら、これに優る幸せはありません。

1996年11月24日

東京アマデウス合唱団

PROGRAM & NOTES

第 1 ステージ

「イエスを十字架につけし間に闇となりて」

Tenebrae factae sunt

Johan Georg Albrechtsberger (J.G.アルブレヒツベルガー)

J. G. Albrechtsbergerは1736年2月3日ウィーン近郊Klosterneuburgで生まれ、7歳のとき地元のアウグスト派の教会の聖歌隊に入り、そこでLeopold Pittnerからオルガンと通奏低音を学び、G. M. Monnに作曲を学んだ。

更にMarian Gurtler, Joseph Weiss、ウィーンのイエズス会神学校に学んだのち、方々の教会のオルガニストを勤め、1772年からカルメル会の教会の聖歌隊指導者、宮廷器楽オーケストラのオルガニストとして奉職し、1791年聖Stephen礼拝堂の副楽長に友人Mozartの後任として就任、1793年楽長に昇任、1809年3月7日死去まで勤めた。1794年から95年にかけてBeethovenが彼から対位法を学んだことはよく知られている。その生涯に284前後の教会作品を遺したが、この曲はイースター前の聖金曜日（オーストリアのカトリック教会では聖木曜日に聖体の仮安置所が設置され、聖金曜日と聖土曜日に聖体詣でsepulcroを行う）のためのレスポンソリウム（聖句独唱後に独唱者と聖歌隊が交互に歌う典礼聖歌）の一部で、キリスト受難の瞬間を描写するとともに、その聖体から流れ出る血と水に私達があずかっていることを強調している。

Albrechtsbergerはウィーン以前に、この無伴奏の作品のほかにもsepulcroのためにオラトリオなどを書いており、このジャンルでは早くから高い評価を受けていた。

「めでたし、天の女王の君よ、めでたし、御使いの主なる君よ」口短調

Ave Regina coeloum

Johan Georg Albrechtsberger (J.G.アルブレヒツベルガー)

ブタペストの国立図書館にこの曲の自筆譜が保存されていて、4曲のAve Reginaがセットになっている。第二曲ト短調、第一曲ヘ短調、第四曲口短調の順に綴られていて、第三曲は紛失している。今回演奏するのは第四曲である。このセットの自筆譜の最初のページに「1773」と記入された数字が四曲の成立年月と考えられている。グレゴリオ聖歌の習慣から2月2日に行われる聖母マリア御浄めの祝日から聖木曜日までの間の終課の時に使われたか、或は降誕節の晩課のために作られたと考えられるアンティフォナである。

フーガの技法を使った小品であるが、この作曲者の教会音楽中最も充実した作品の一つと評価されている。

「栄光の使徒たちの群れは汝をほめまつる」

Te gloriosus

Domenico Scarlatti (D.スカラルラッティ)

Domenico Scarlattiは1685年10月26日作曲家Alessandro Scarlattiの六番目の子としてナポリに生まれ、1701年9月13日ナポリ王室礼拝堂オルガニスト兼作曲者に就任、1705年春ナポリを去ってヴェネツィア、1709年からはローマで過ごし、亡命中のポーランド女王Maria

Casimiraの私設宮廷付音楽家、ヴァチカンのポルトガル大使Fontes侯爵の宮廷音楽家を経て、1719年ポルトガルのリスボンにある総大司教礼拝堂楽長になり、国王ジョアンJohn5世の皇女Maria Barbaraと国王の弟Don Antonioの教師を兼ねた。500以上の彼のチェンバロ・ソナタはこの教育のために書かれたのである。

1728年Maria Barbaraがスペイン皇太子Fernandoと結婚してマドリッドに移ったため、Scarlattiは御雇音楽家として、以後1757年7月23日死去までスペインで過ごした。ポルトガル時代に書かれた声楽曲は1755年11月の震災のため自筆譜が全て失われてしまって、ただ二曲だけが写譜によって伝えられている。このモテットTe gloriosusはその一つで、11月1日の諸聖人の祝日に歌われるアンティフォナのために作曲された。部分的にソロを思わせるような合唱の動きが見られる。

リタニア：「ロレートの連祷」変ロ長調

Litaniae Lauretanae B.M.V. K.109

Wolfgang Amadeus Mozart (W.A.モーツァルト)

1769年12月13日から1771年3月28日にかけてMozartは第一回のイタリア旅行を行ったが、ザルツブルグに帰着して大司教のコンサートマスターの職に復帰後間もなく、十五歳の若さで5月3日からMirabell城の小宮廷礼拝堂で始まる聖母祈禱のために、この作品を書いた。大司教の要請によってザルツブルグ時代の教会作品全てがそうであったように、連祷文が短い時間で終わるように重唱で処理されたり、反復を避けたり、簡略化されたりする特徴が見られる。ロレートの連祷(聖母連祷)と呼ばれるのは、この連祷がイタリア半島の中部Marche州の都市ロレートLoretoの聖母を祭ったSanta Casa聖母教会の銘文を要約して使って居り、そこに始まったと云われるためである。

Kyrieに始まり、Agnus Deiで終わる形式はほかの連祷文とほぼ同じで、Sancta Maria以下Regina Angelourmまで聖母と天后を賛美しながら呼び掛け、《ora pro nobis》「われらのために祈りてとりなし給え」(グレゴリオ聖歌では応唱の形式で歌われる)と、嘆願の祈禱を連ねて行くところに特色がある。曲は全体にイタリア風の明るさを保って書かれている。

第 2 ステージ

ヴェスペレ：「信仰の証し人のための式用晩課」ハ短調

Vesperae solennes de Confessore K.339

Wolfgang Amadeus Mozart (W.A.モーツァルト)

Mozartのザルツブルグ時代最後の作品で、1780年に或る証聖者(司教ではない)を記念した特別の式用に作曲された。テキストはDixit(ハ短調)が詩編110、Confitebor(変ホ長調)が詩編111、Beatus vir(ト長調)が詩編112、Laudate pueri(二短調)が詩編113、Laudate Dominum(ヘ長調)が詩編117、Magnificat(ハ長調)がルカによる福音書1章46-55のマリア賛歌を使用しており、各章の終わりを「父と子と聖霊に栄光。はじめにありし如く、今も、いつまでも、世々としえに。アーメン。」と結ぶ。

歌詞の内容を効果的に歌い上げる表現の工夫が随所に凝らされており、グレゴリオ聖歌の旋律がそのままユニゾンで歌い出されて荘厳な効果を高めているConfiteborのような楽章もある。Laudate Dominumは詩編のテキストがソプラノのソロによって美しくアリア風に歌われる。

P R O F I L E

指揮 齋藤 明生

東京芸術大学卒業、同大学院修了。芸大定期演奏会のブラームス「ドイツ・レクイエム」でソリストに選ばれた他、在学中よりベートーヴェン「交響曲第九番」や、多くの宗教音楽のソリストを務める。92年には独ライブチヒ聖トーマス教会においてH. J. ロッチュ指揮によるカンタータ礼拝式にソリストとして出演した。また在学中より在籍している芸大バッハカンタータクラブでは多年にわたり演奏委員長を務める。声楽を岳藤 豪希、R. フィッシャー、Ph. フィッテンロッハー、宇田川貞夫に、宗教音楽を小林道夫、岳藤 豪希の各氏に師事。現在宗教音楽研究会合唱団、渋谷混声合唱団指揮者。87年から当合唱団の指導に当たっている。

ソプラノ 高橋 節子

東京芸術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修了。在学中、芸大バッハカンタータクラブに在籍。芸大定期演奏会においてハイドン「天地創造」にソリストとして出演する他、多くの宗教曲のソリストを務める。93年日演連新人推薦演奏会(札幌)に出演。93～94年国際ロータリー財団奨学生として独フライブルクに留学。藤田道子、戸田敏子、伊原直子、E・M マイヤーオールバースレーベンの各氏に師事。

アルト 戸畑 リオ

東京芸術大学修士課程修了。在学中、芸大定期ベートーヴェン「ミサ・ソレムニス」のオーディションに合格。ベートーヴェン「第九」、J.S. バッハ「口短調ミサ」などの演奏会でソリストを務める。Josef. Loible氏、毛利準氏、福嶋芳明氏に師事。

テノール 中嶋 俊夫

東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。同大学大学院音楽研究科修了。イタリアのマチェラータ大学に留学。故柴田睦陸、吉岡巖、木川田誠、有村祐輔、宇田川貞夫の諸氏に師事。94年、96年の夏にイタリアのウルビーノ国際古楽祭に参加。これまで奈良・神戸・名古屋・東京にてジョイントコンサート行方一方、ヘンデルやバッハなどの宗教曲、および「第九」のソロを務めている。グループ「レ・カマラード」のメンバー。

バス 小笠原美敬

17歳から父・小笠原克美に声楽の手ほどきを受ける。1991年東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。同大学在学中より高橋大海氏に師事。1992年渡欧、ウィーンにてノーマン・シェトラ氏に師事し、ドイツリート中心に研鑽を積む。帰国後はバロック音楽を中心とした演奏活動を始め、歌曲や宗教音楽にも力を注いでいる。又、1995年にはヴォーカルアンサンブル「リーダー・クランツ」設立し、ドイツロマン派の傑作に取り組んでいる。バッハ・コレギウム・ジャパン・メンバー。浅野学園講師。

オルガン 水野 克彦

東京芸術大学卒業。ピアノを滝崎鎮代子、クラリネットを千葉国夫、室内楽を細野孝興の各氏に師事。オルガンの手ほどきを今井奈緒子氏に受ける。オルガン通奏低音のほか、合唱指導、ピアノ伴奏、作曲と幅広く活動。二度のオルガンリサイタルのほか、東京大学教養学部オルガン演奏会、フランス文学会オルガン演奏会、ドイツ文学会オルガン演奏会に出演。茗荷谷キリスト教会オルガニスト。日本オルガニスト協会会員。日本オルガン研究会会員。

東京アマデウスアンサンブル

海保あけみ(Vn. 1)	笠原直子(Vn. 1)	岡田文子(Vn. 1)
片桐恵里(Vn. 2)	村田早苗(Vn. 2)	山口直美(Vn. 2)
牧野ルル子(Vc.)	柳澤智之(Cb.)	
堂阪清高(Fg.)	海保 泉(Tp.1)	小原裕樹(Tp.2)
伊沼弘能(Timp.)		

東京アマデウス合唱団

ソプラノ	大久保ルミ子	加藤多恵子	桑島加代子	斎藤志保美
	佐藤裕子	辻村順子	寺田美穂子	永瀬久子
	山中ゆりか	吉田弘美		村松あおい
アルト	相澤美佐	甘粕利枝	石橋真須枝	伊藤正子
	岡部公子	加藤尚子	国府田文子	武井佳代子
	菅原芳子	辻敏子	堀内順子	平野玲子
				宮崎米子
テノール	伊原宏	片岡繁	中屋哲夫	松平新太郎
				吉田英人
ベース	柿沼哲	菅原定三	野口碩	吉田一郎



1981 February Mozart :RÉQUIEM
1981 November Händel :MESSIHA
1982 November Fauré :RÉQUIEM
1983 September Mozart :KRÖNUNGS MESSE
1984 September Mozart :RÉQUIEM
1985 October Bach :KANTATE Nr.106
1986 October Mozart :GROSSE MESSE
1987 October Schütz :MUSIKALISCHE EXEQUIEN
1988 December Mozart :VESPERAE
1989 November Mozart :RÉQUIEM
1991 February Mozart :LITANIAE
1991 November Mozart :DOMINICUS MESSE
1992 Nov. Charpentier :MESSE DE MINUIT POUR NOËL
1993 November Mozart :MISSA BREVIS
1994 November Mozart :RÉQUIEM (JOINT CONCERT)
1995 October Bach :KANTATE Nr.182
1996 November Mozart :VESPERAE

J. G. Albrechtsberger

《Tenebrae factae sunt》

Tenebrae factae sunt,
dum crucifixissent Jesum judaei,
et circa horam nonam exclamabat Jesus voce magna:
Deus meus, Deus meus, ut quid me dereliquisti?
Et inclinato capite, emisit Spiritum.
Tunc unus ex militibus lancea latus ejus perforavit,
et continuo exivit sanguis et aqua.
Et velum templi scissum est a summo usque deorsum,
et omnis terra tremuit.
(refrain)
Tunc unus ex militibus lancea latus ejus perforavit,
et continuo exivit sanguis et aqua.

ユダヤびとらイエスを十字架につけし間に
闇となりて、
九時ごろイエス大なる声して叫び給えり、
「わが神、わが神、なんぞ我を見捨て給いし」と。
さて頭を垂れて、霊を渡し給いぬ。
その時、兵卒の一人槍にて彼のわき腹をつけば、
直ちに血と水と流れ出でぬ。
その時、聖所の幕、上より下まで裂けて、
全地震いたり。
(反復句)
その時、兵卒の一人槍にて彼のわき腹をつけば、
直ちに血と水と流れ出でぬ。

《Ave Regina coelorum》

Ave Regina coelorum.
Ave Domina angelorum.
Salve Radix,
Salva porta, ex qua mundo lux est orta.
Gaude Virgo gloriosa.
Super omnes speciosa:
Vale, o valde decora,
et pro nobis Christum exora.

めでたし、天の女王の君よ。
めでたし、御使いの主なる君よ。
健やかに、根源の君よ、
健やかに、世を照らす光の現れ出でたる門よ。
処女よ、誇りて喜び給え。
すべての処女にまさりて美しき君よ。
健やかに、おおまことに麗しき君よ。
そしてわれらのためにキリストを求め得給え。

Domenico Scarlatti

《Te gloriosus Apostolorum chorus》

Te gloriosus Apostolorum chorus,
Te Prophetarum laudabilis numerus,
Te Martyrum candidatus laudat exercitus.
Te omnes Sancti et electi voce confitentur unanimes,
beata Trinitas, unus Deus.

栄光に満ちたる使途達の集える群れも、
預言者達のほむべき大勢のきみらも、
白衣の殉教者達の群も、汝をほめまつる。
すべての聖別されし者と選ばれし者の声、
こぞりて汝を、祝福されし三位一体の君、
唯一の神と、告白しまつる。

Wolfgang Amadeus Mozart

《Litaniae Lauretanae B. M. V.》

1. Kyrie(合唱)

Kyrie eleison.
Christe eleison.
Kyrie eleison.
Christe audi nos,
Christe exaudi nos.
Pater de coelis Deus,
miserere nobis.
Fili Redemptor mundi Deus,
miserere nobis.
Spiritus Sanctus Deus,
miserere nobis.
Sancta Trinitas, unus Deus,
miserere nobis.

主よ、あわれみ給え。
キリストよ、あわれみ給え。
主よ、あわれみ給え。
キリストよ、われらの願いを聞き入れ給え。
キリストよ、われらの願いを聞き届け給え。
天より臨み給いし父なる神よ、
われらにあわれみを覚え給わんことを。
この世のあがない主、み子なる神よ、
われらにあわれみを覚え給わんことを。
聖霊なる神よ、
われらにあわれみを覚え給わんことを。
聖なる三位一体、唯一の神よ、
われらにあわれみを覚え給わんことを。

2. Sancta Maria(四重唱、合唱)

Sancta Maria, ora pro nobis.
Sancta Dei genitrix, sancta Virgo virginum,
ora pro nobis.
Mater Christi, mater divinae gratiae,
mater purissima, mater castissima,
ora pro nobis.
Mater inviolata, mater intemerata,
ora pro nobis.
Mater amabilis, mater admirabilis,
ora pro nobis.
Mater Creatoris, mater Salvatoris,
ora pro nobis.
Virgo prudentissima, virgo veneranda,
virgo praedicanda, ora pro nobis.
Virgo potens, virgo clemens, virgo fidelis,
ora pro nobis.
Speculum justitiae, sedes sapientiae,
ora pro nobis.
Causa nostrae laetitiae,
ora pro nobis.
Vas spirituale, vas honorabile,
vas insigne devotionis, ora pro nobis.
Rosa mystica, turris Davidica,
ora pro nobis.
Turris eburnea, domus aurea.
Foederis arca, janua coeli, stella matutina,
ora pro nobis.

聖マリヤよ、われらのために祈りてとりなし給え。
聖なる神の御母、聖なる処女のおとめよ、
われらのために祈りてとりなし給え。
キリストの御母よ、優しき神の御母よ、
いとよき御母よ、いと汚れなき御母よ、
われらのために祈りてとりなし給え。
傷なき御母よ、罪なき御母よ、
われらのために祈りてとりなし給え。
慈しみ深き御母よ、くすしき御母よ、
われらのために祈りてとりなし給え。
造り主の御母よ、救い主の御母よ、
われらのために祈りてとりなし給え。
いと賢き処女よ、尊き処女よ、ほむべき処女よ、
われらのために祈りてとりなし給え。
力ある処女よ、慈悲深き処女よ、信頼する処女よ、
われらのために祈りてとりなし給え。
義の似姿、英知のとどまる座よ、
われらのために祈りてとりなし給え。
われらの喜びの原因(もと)よ、
われらのために祈りてとりなし給え。
霊の器、誉むべき器、献身の刻印を帯びたる器よ、
われらのために祈りてとりなし給え。
神秘のバラよ、ダビデのやぐらよ、
われらのために祈りてとりなし給え。
象牙の塔よ、黄金の宮殿よ、
契約の箱よ、天の門よ、あしたの星よ、
われらのために祈りてとりなし給え。

3. Salus infirmorum(合唱)

Salus infirmorum, refugium peccatorum,
consolatrix afflictorum,
ora pro nobis.
Auxilium Christianorum,
ora pro nobis.

病める弱きものの救いよ、罪人の隠れ場よ、
打ち砕かれしものの慰め主よ、
われらのために祈りてとりなし給え。
キリスト者の助け主よ、
われらのために祈りてとりなし給え。

4. Regina Angelorum(四重唱)

Regina Angelorum,
ora pro nobis.
Regina Patriarcharum, regina Prophetarum,
ora pro nobis.
Regina Apostolorum,
ora pro nobis.
Regina Martyrum,
ora pro nobis.
Regina Confessorum, regina Virginum,
ora pro nobis.
Regina Sanctorum omnium,
ora pro nobis.

御使達の女王の君よ、
われらのために祈りてとりなし給え。
大祖アブラム達の女王、預言者達の女王の君よ、
われらのために祈りてとりなし給え。
使徒達の女王の君よ、
われらのために祈りてとりなし給え。
殉教者達の女王の君よ、
われらのために祈りてとりなし給え。
信仰の証し人達の女王、処女達の女王の君よ、
われらのために祈りてとりなし給え。
全ての聖徒の女王の君よ、
われらのために祈りてとりなし給え。

5. Agnus Dei

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,
parce nobis Domine.
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,
exaudi nos Domine.
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,
miserere nobis.

世の罪を除き給う神の小羊、
われらを救し給え、主よ。
世の罪を除き給う神の小羊、
われらの願いを聞き届け給え。

世の罪を除き給う神の小羊、
われらにあわれみを覚え給わんことを。

《Vesperae solennes de Confessore》

1. Dixit(合唱、四重唱)

Dixit Dominus Domino meo:
Sede a dextris meis:
Donec ponam inimicos tuos, scabellum pedum tuorum.
Virgam virtutis tuae emittet Dominus ex Sion:
dominare in medio inimicorum tuorum.
Tecum principium in die virtutis tuae
in splendoribus sanctorum:
ex utero ante luciferum genui te,
Juravit Dominus, et non poenitebit eum:
Tu es sacerdos in aeternum
secundum ordinem Melchisedech.
Dominus a dextris tuis,
confregit in die irae suae reges.
Judicabit in nationibus
implebit ruinas:
conquassabit capita in terra multorum.
De torrente in via bibet:
propterea exaltabit caput.
Gloria Patri, et Filio, et Spiritui Sancto.
Sicut erat in principio, et nunc, et semper,
et in saecula saeculorum. Amen.

2. Confitebor(合唱、四重唱)

Confitebor tibi Domine in toto corde meo:
in consilio justorum, et congregatione.
Magna opera Domini:
exquisita in omnes voluntates ejus.
Confessio et magnificentia opus ejus:
et justitia ejus manet in saeculum saeculi.
Memoriam fecit mirabilium suorum,
misericors et miserator et justus:
escam dedit timentibus se.
Memor erit in saeculum testamenti sui:
virtutem operum suorum annuntiabit populo suo:
Ut det illis hereditatem gentium.
opera manuum ejus veritas et iudicium.
Fidelia omnia mandata ejus:
confirmata in saeculum saeculi.
facta in veritate et aequitate.
Redemptionem misit Dominus populo suo:
mandavit in aeternum testamentum suum.
Sanctum et terribile nomen ejus:
initium sapientiae timor Domini.
Intellectus bonus omnibus facientibus eum:
laudatio ejus manet in saeculum saeculi.
Gloria Patri, et Filio, et Spiritui Sancto.
Sicut erat in principio, et nunc, et semper,
et in saecula saeculorum. Amen.

3. Beatus vir(合唱、四重唱)

Beatus vir, qui timet Dominum:
in mandatis ejus volet nimis.
Potens in terra erit semen ejus:
generatio rectorum benedicetur.
Gloria et divitiae in domo ejus:
et justitia ejus manet in saeculum saeculi.
Exortum est in tenebris lumen rectis:
misericors, et miserator, et justus.
Jucundus homo qui miseretur et commodat,
Disponet sermones suos in iudicio:
Quia in aeternum non commovebitur.
In memoria aeterna erit justus:
ab auditione mala non timebit.
Paratum cor ejus sperare in Domino,
non commovebitur donec despiciat inimicos suos.
Dispersionem dedit pauperibus:
justitia ejus manet in saeculum saeculi:
cornu ejus exaltabitur in gloria.
Peccator videbit, et irascetur,
dentibus suis fremet et tabeschet:
desiderium peccatorum peribit.

主(ヤヴェ)はわが主にのたまう、
わが右に坐すべし、
われ汝の仇を汝の承足として置くまでは、
主は汝の力の杖をシオンよりつき出し給う。
汝はもろもろの仇のなかにて支配すべし。
汝と共なる前線は汝の攻撃の日に
聖なる君の輝きを帯びん、
光を放つ前に汝の胎より生れ出でしごとく。
主は誓いを立てて、後悔し給うことなし、
汝はとこしえに祭司なれば、
メルキゼデクの位にひとしく。
主は汝の右にありて、
その怒りの日に王らを討ち滅ぼし給えり。
(主は)もろもろの国の内にて審判を行い、
しかばねをみだし、
広大なる地をすぐる首領どもを混乱に陥れん。
かれ道のほとりの溪流よりくみてのみ、
それにてこうべを挙げん。
父と子と聖霊に栄光。
はじめにありし如く、今も、いつまでも、
世々とこしえに。アーメン。

主(ヤヴェ)よ、我等おのが心を尽くして汝に、
正しき人々の集い、会衆の中にて告白しまつる。
主の御業は大きく、
それを進んで行かう者はみな尋ね求む。
主の成す所は疑いの余地なく、威厳あり、
そしてその義はとこしえに続く。
(ヤヴェ)はその奇しきみわざを記憶せしめ、
同情と憐憫と公正をそなえ、
おのれを畏れる者達に糧を与え給えり。
その契約をとこしえに心に留め、
そのみわざの力をおのれの民に知らしめんと、
もろもろの外つ国の嗣業を彼等に与え給えり。
その手のみわざは真実と裁きなり。
その命令はすべて真実にして、
世々とこしえに堅固なり。
真実と公正とをもちて行わる。
主はその民に贖いを送り給い、
その契約をとこしえに命じ給えり。
それは聖にして、恐れ敬うべきその御名。
主を恐れ敬うことは知恵の初め。
これを行う者にはみなよき悟りあり。
その賛美はとこしえに続く。
父と子と聖霊に栄光。
はじめにありし如く、今も、いつまでも、
世々とこしえに。アーメン。

幸いなり、主を恐れ敬い、
その諸々の戒めを大いに欲する人は、
その子孫はこの地にて力ある者となり、
祝福されし直き人々の世代となる。
その家には栄光と富ありて、
その公正はとこしえに続く。
直き者には闇の中にも光あらわれ、
同情と憐憫と公正をそなえたり。
憐れみに催されて貸し与うる人は喜ばしき人、
裁きるときも、(主は)彼の言葉を分け置き給う。
かかる人はとこしえに揺らぐこと無ければなり。
正しき者は(主の)とこしえの記憶のうちにあり。
されば、悪しき噂にも恐るることなからん。
その定まりたる心は主に期待し、
揺らぐことなく、ついにはその敵どもを見下す。
貧しき人々に分かち与え、
その公正はとこしえに続き、
彼の角は栄光を受けて挙げられん。
罪びとはそれを見て腹を立て、
その歯を鳴らして消え去る。
罪びとの願いはほろぶべし。

Gloria Patri, et Filio, et Spiritui Sancto.
Sicut erat in principio, et nunc, et semper,
et in saecula saeculorum. Amen.

4. Laudate pueri
Laudate pueri Dominum,
laudate nomen Domini.
Sit nomen Domini benedictum,
ex hoc nunc, et usque in saeculum
laudabile nomen Domini.
A solis ortu usque ad occasum,
laudabile nomen Domini.
Excelsus super omnes gentes Dominus,
et super coelos gloria ejus.
Quis sicut Dominus Deus noster,
qui in altis habitat,
et humilia respicit in caelo et in terra?
Suscitans a terra inopem,
et de stercore erigens pauperem:
Ut colloquet eum cum principibus populi sui.
Qui habitare facit sterilem in domo,
matrem filiorum laetantem.
Gloria Patri, et Filio, et Spiritui Sancto.
Sicut erat in principio, et nunc, et semper,
et in saecula saeculorum. Amen.

5. Laudate Dominum (ソプラノソロ、合唱)
Laudate Dominum omnes gentes:
laudate eum omnes populi:
Quoniam confirmata est super nos misericordia ejus:
et veritas Domini manet in aeternum.
Gloria Patri, et Filio, et Spiritui Sancto.
Sicut erat in principio, et nunc, et semper,
et in saecula saeculorum. Amen.

6. Magnificat (合唱、ソプラノソロ、四重唱)
Magnificat anima mea Dominum.
Ex exultavit spiritus meus in Deo salutari meo.
Quia respexit humilitatem ancillae suae:
ecce enim ex hoc beatam me dicent omnes generationes.
Quia fecit mihi magna qui potens est:
et sanctum nomen ejus.
Et misericordia ejus a progenie in progenies
timentibus eum.
Fecit potentiam in brachio suo:
dispersit superbos mente cordis sui.
Deposuit potentes de sede
et exaltavit humiles.
Esurientes implevit bonis:
et divites dimisit inanes.
Suscepit Israel puerum suum
recordatus misericordiae suae:
Sicut locutus est ad patres nostros,
Abraham et semini ejus in saecula.
Gloria Patri, et Filio, et Spiritui Sancto.
Sicut erat in principio, et nunc, et semper,
et in saecula saeculorum. Amen.

父と子と聖霊に栄光。
はじめにありし如く、今も、いつまでも、
世々とこしえに。アーメン。

僕達よ、主をほめたたえよ。
主の御名をほめたたえよ。
主の御名の祝福されんことを、
この今より、とこしえまで
主の御名はほむべきかな。
日の昇る処より沈む処まで、
主の御名はほむべきかな。
主はすべての国民を超えて高くいまし、
その栄光は諸々の天を超えて給えり。
われらの神、主のごとき、誰かあらんや?
主は高きに住み給い、
おのれを低くして天と地とを眺め渡し給う。
乏しきものを塵より引き起こし、
貧しきものを糞土より揚げ給う、
あたかも彼等を御民の列と一つにするごとく。
不妊のものを家庭に住まわせ、
子のある母の喜びを持つものとし給う。
父と子と聖霊に栄光。
はじめにありし如く、今も、いつまでも、
世々とこしえに。アーメン。

すべての国よ、主をほめたたえよ。
すべての民よ、主をほめたたえよ。
その慈しみはわれらを超えて疑いなく、
主のまことはとこしえに続けばなり。
父と子と聖霊に栄光。
はじめにありし如く、今も、いつまでも、
世々とこしえに。アーメン。

我が魂は主をあがめ、
我が霊は我が救いの神に喜びおどる。
その婢女の卑しきをも顧み給えばなり。
見よ、今よりのち万世の人われを幸福とせん。
力ある君われに大なることを成し給い、
その御名は聖なればなり。
その憐れみは代々
主を畏れ敬う者に及ぶ。
その御腕にて権能をふるい給い、
心の思い高ぶるものを散らし給う。
権勢あるものを座位より下ろし、
低きものを高く成し給う。
飢えたる者を良き物にて飽かせ、
富めるものを空腹にて追い出し給う。
その僕イスラエルを受け入れて、
その憐れみを記憶して忘れ給わず。
われらの祖先にの給いし如く、
アブラハムとその子孫に対してとこしえに。
父と子と聖霊に栄光。
はじめにありし如く、今も、いつまでも、
世々とこしえに。アーメン。